# 第41回結核サーベイランス研究会（TSRU）
# ―ロンドンにて開催

結核予防会　結核研究所
臨床・疫学部　部長　大角　晃弘

TSRUは，結核の疫学研究者が年１回集まり，結核疫学に関する課題について発表し，議論し合う場として開催されており，今回で第41回目を迎えました。今年は，英国公衆衛生局（Public Health England, PHE）とロンドン大学衛生・熱帯医学研究所（London School of Hygiene and Tropical Medicine, LSHTM）の各関係者が主催して，ロンドン大学の校舎で，４月４日朝から６日昼までの２日半開催されました。参加者は主催者側を含めて約60名で，結核研究所からは石川所長他６名が参加しました。今年のTSRUの主題は，「結核サーベイランスと結核対策の改善のための数理モデル」・「結核発病高危険集団への対策：誰が，どのように，どこで？」・「結核終息戦略の主柱としての潜在性結核感染症：その実際」の３つで，２日半に渡り，５つの会合で発表と討論とが行われました。

第１日目午前中の結核サーベイランスと結核対策の改善のための数理モデルの会合では，ベトナムから，結核患者発見をさらに強化することで，結核罹患率・結核死亡率・結核有病率のいずれも減少することが予想されることと，初回治療患者全てに抗結核薬剤感受性試験を実施して，多剤耐性結核患者に９カ月の治療法を適用することが，現状の対策と比較して経済的に有利であることが発表されました。午後の会合は結核サーベイランスを主題として，石川結核研究所所長による日本の結核罹患率に関する将来予測についてと，河津臨床・疫学部研究員による入国前結核健診の有用性に関する発表を含めて，７演題の発表と討論とが行われました。

第２日目午前中は，泉臨床・疫学部究員による日本における接触者健診実施状況評価指標選定のための保健所調査結果を含めて，潜在性結核感染症（LTBI）に関する７つの発表がありました。ロンドン大学からは，「世界の約４分の１の人が結核に既に感染している」と推定することが妥当であると発表されました。第２日目午後には，アフリカ諸国で実施された結核有病率調査の概要が，WHOから報告されました。第２日目夕方は，結核治療アドヒアランス（adherence to TB treatment）と結核による壊滅的費用（catastrophic cost）に関する会合で，WHO西太平洋地区事務所からは，カンボジアにおける結核患者の費用調査を実施し，積極的に結核患者を発見する方法と，結核患者の受診により発見する方法とで要する費用の比較検討した結果，前者がより費用が少なくて済み，かつ，家計破綻をもたらす割合も低い結果が得られたことが報告されていました。

最終日午前中は，結核発病高危険集団を対象とする結核対策のあり方についての会合で，６つの演題が発表され，韓国からは，2002年に収集された全国保険サービス抽出コホートデータベースを用いて，うつ病の有無で観察集団を分けて結核発病リスクについて検討した結果，うつ病が結核発病に寄与するリスクが有意に高い傾向を認めたことが報告されました。

1966年から開催されているTSRUは，当然のこととして，参加者も入れ替わり，議論する内容も変わってきています。「結核の疫学」というキーワードで結びついた世界中に点在する研究者が，長年にわたって毎年一つところに集まり，自由に討論し，質の高い結核疫学研究を目指す努力を重ね続けていることは，私にとって驚きの一つです。今後も，志を一つとする研究者が交流を重ね，互いに切磋琢磨する場として，TSRUが益々用いられることを願います。

TSRU第１日目結核サーベイランス会合での質疑応答の場面
（左から２番目　石川所長、同３番目　河津研究員）